

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 折尾 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学）

##### 教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問調査

##### 生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

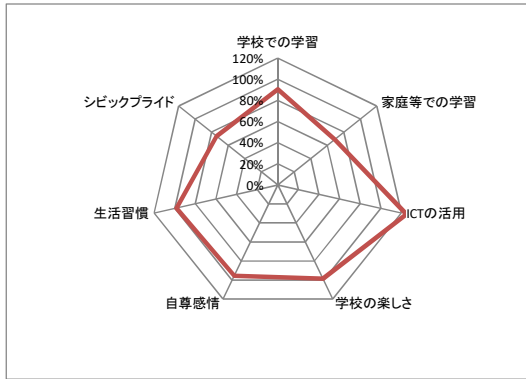
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	どの問題の正答率も概ね全国平均に近くなっている。話すこと聞くことの設問の正答率が低く、自分の考えを上手に表現できない生徒や他の生徒の考えを上手に受け入れることができない生徒がいることが分かった。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	行書の特徴にかかわる問題 漢字を書くこと問題	
	努力が必要な問題	話すこと聞くことの問題 情報の扱い方に関する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	正答率が全国平均を下回る設問が多くあり、特に数と式に関する設問では大きく下回った。計算の技能や知識が定着しておらず、数値処理能力が低いと思われる。データの活用に関する設問の正答率が高く、特に四分位範囲における理解力が高くなっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	データの活用に関する問題	
	努力が必要な問題	数と式に関する問題（特に等式の変形）	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ICT機器をどの程度使用したか」「授業以外で勉強のためにICT機器をどの程度使用したか」の問いに対して全国平均よりも1.25倍の生徒が利用している。</li> <li>・学校の楽しさ、自尊感情、生活習慣についてはほぼ全国平均並みに肯定的な回答をしている。</li> <li>・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合は高いものの、日常の家庭での学習に関しては70%を満たさずにいる。今後は、個に応じた課題の内容や、時間の使い方など啓発していく。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

タブレットを利用した学習が定着している。しかしながら、それが基礎学力の定着に結びついていない。本校の喫緊の課題である基礎学力の向上と家庭学習の定着をタブレットの効果的な利用方法に結びつけるか模索しながら活用していくことが課題である。授業では、思考力・判断力・表現力の向上に向けた授業改善に取り組み、学びあい活動や話し合い活動等の積極的な活用を推進していく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

生活習慣に関しては安定した水準を保っているものの家庭学習に関しては本年度も定着していない。タブレットでの家庭学習を充実させることには成功しているものの、結果に結びついていない。学校通信やHPの掲載で家庭学習の重要性を啓発していく。また、国語の漢字や数学の計算スキル等を小学校とタイアップしながら基礎学力の向上を図っていく。